

長崎県五島市奈留島における景観構造解析と重要文化的景観選定にむけた課題

福岡大学工学部社会デザイン工学科 学生会員○福嶋梨乃, 正会員 柴田 久・石橋知也

1. 研究の背景・目的

長崎県では平成 19 年度に「長崎の教会とキリスト教関連遺産」が世界遺産暫定登録構成資産となり、現在、本登録に向けた取り組みが本格化している。一方、平成 23 年度には旧五輪教会を有する長崎県五島市の久賀島が重要文化的景観地区に選定されたものの¹⁾、南東側に位置する奈留島は久賀島に隣接しているにもかかわらず、重要文化的景観地区の選定には至っていない。これを受け五島市では、平成 29 年度より奈留島の文化的景観価値を明らかにするために、同島の景観調査に着手している。久賀島と同様に、重要文化的景観地区に選定されるには対象地の文化的景観価値が明らかにされるとともに、その価値の保存のために必要な措置が定められていることが条件となっている。

本研究では奈留島の江上地区、大串地区を対象とした景観調査から、同地区の景観構造を把握し、文化的景観価値を明らかにすること、さらに重要文化的景観地区選定にむけた課題について考察することを目的としている。

2. 調査対象地区と分析方法

対象地区の奈留島は五島列島の中心に位置し、人口 2,246 人の離島である。本事業は 2 ヶ年計画でおこなわれ、平成 29 年度の調査は江上地区と大串地区が対象とされた。選定理由の詳細は以下の通りである。(1)江上集落が五島市景観条例に基づく景観重要地区に指定されていること、(2)江上集落はかくれキリシタンが密かに信仰を継続するために形成した移住集落であること、(3)重要文化的景観地区である久賀島とのつながりが予測できること。

本研究では以下の手順で検討を進めた。まず久賀島の重要文化的景観を対象とした先行研究や関連文献の精読から、奈留島と久賀島の関係を整理した。次に集落の生業や奈留島特有の文化的景観、歴史的構造物に関する予備的調査のため、対象地域を良く知る島民の方へのヒアリング調査をおこなった。さらにヒアリング調査の結果、文化的景観として重要であると判断された金比羅神社・日枝神社については、現地踏査により現況を確認した。また奈留島の地形を特徴付ける地質現象ならびに集落構造についてはドローンを使用し、状況を把握した。これらの調査、分析結果を踏まえ、江上集落と大串集落の地形断面の模式図を作成した。

3. 奈留島の地理的特徴

ここでは、島民の方に対しておこなったヒアリング調査ならびに現地踏査の結果を地区ごとに述べる。

(1)江上地区の分析結果

a)江上地区に存在する景観構成要素

江上地区には平成 20 年に国の重要文化財に指定された江上天主堂が存在しており【写真-1】、集落北部の小高い場所にカトリックの墓の形態を残すキリシタン墓が確認された。江上集落の生業は半農半漁であり、急峻な斜面を利用し段々畑が形成されていた。しかし、生業の主体が大串集落と共同で行うキビナ漁に移行したことを期に、段々畑は管理されなくなった。またイワシ漁、キビナ漁と共に奈留島の漁業発展を支えてきたのは、イワシの煮干し加工産業であったことが把握された。この煮干し加工は江上集落と大串集落の共同で行われ、海岸には加工の際に使われた天日干し用の「ガケダナ」が広がり、生業と密接な景観構成要素として看取された。昭和 30 年に海岸沿いの道路が整備されるまで海岸沿いには石垣が存在していたことも明らかとなった。

b)江上地区と久賀島の結びつき

江上地区と五輪地区は生業ならびに宗教を介した結びつきが存在するという知見が得られた。農作業に必要な人手が五輪集落の住民だけでは不足した際、奈留島の漁師が潮の干満にあわせて五輪集落にまで協力しに来ていた【図-1】。また江上天主堂で礼拝が行われた際には、五輪集落の住民を含めた久賀島北東部に住むカトリック信者が伝馬船で江上天主堂の礼拝に参加していた。

c)移住集落の地理的特徴と歴史的背景

永禄 9 年、宇久純定が宣教師を招いたことにより、下五島地域にキリスト教が伝搬し、奈留島にも信者が存在した。加えて慶長 19 年の禁教令に伴い上五島で五島崩れが起こったことにより、奈留島に移住するキリシタンが続出、この頃にかくれキリシタンの移住地として江上集落が形成されたものといえる。これに対して、大串集落は元々の島民が暮らす地下(じげ)集落であることも明らかとなった。

(2)大串地区の分析結果

a)大串地区に存在する景観構成要素

大串集落の民家は密集かつ屋根の傾斜を海側に向けており、民家の間には狭い小道が存在していた。さらに集落を見



写真-1 江上天主堂



写真-2 金比羅神社



図-1 江上地区と五輪地区



図-2 大串地区と蔵地区

下ろせる後背山上に豊漁を祈願する金比羅神社が存在しており、この集落形態は漁村集落の特徴と捉えられる²⁾。現在、神社に繋がる道は雑木林で埋もれており、神社からの眺望も周囲に生い茂る草木によって閉ざされていた【写真-2】。また大串湾では明治時代以降、キビナ漁が盛んに行われ、江上集落同様、ガケダナが生業と密接な景観構成要素となっていた。ガケダナの背後には明治時代から日枝神社が存在しており、古写真により神社の前にガケダナが広がっている様子も確認された。また日枝神社の行事として、旧暦の9月25日に神輿を担いで村を回る例大祭が開催されていたことが把握された。

b)大串地区と久賀島の結びつき

江上地区と五輪地区の繋がりと同様に、大串地区と久賀島との深い繋がりが明らかとなった。一例として奈留島に点在する神社のしめ縄は蔵集落からの稲わらが材料となっており、蔵集落からの供給の際には、大串集落が経路の要として利用されていた。稲わらは大串集落から奈留神社に陸路を通して運ばれた後、氏子の手作業によってしめ縄とされ、奈留島の各神社に供給されていた。また宗教上の繋がりで奈留神社の宮司が久賀島にある蔵神社の宮司を兼任していたことも把握されている【図-2】。

4. 奈留島の文化的景観価値と重文景選定にむけた課題

(1)奈留島の文化的景観価値とその保護施策

まず江上集落は、かくれキリシタンによって島の縁辺部に集落が形成されていたことに起因し、後背の山々などによって独特な圍繞景観を形成させている。江上天主堂はかくれキリシタンの信仰のために建立されたものだが、禁教令廃止以降、集落からの転出者が増え、これに伴う過疎化によって、天主堂の維持管理が困難となっている。また江上集落の生業は半農半漁であったが、明治時代後半以降、生業が漁業に移行すると段々畑が管理されなくなり、消失に至った【図-3】。

一方、大串集落のガケダナはキビナ漁が衰退後の道路整備事業によって撤去され、現在はガケダナの痕跡を残すコンクリートの路床が存在している。また日枝神社は大串集落の生業ならびに慣習と密接な関係にあり、同様に金比羅神社は豊漁

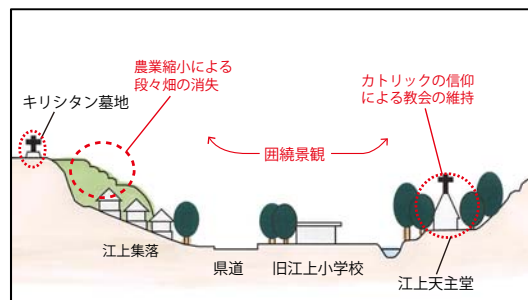


図-3 江上地区の地形断面の景観模式図

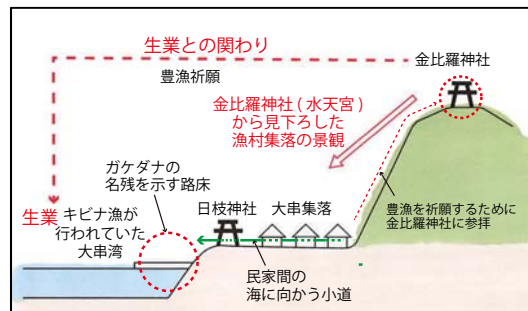


図-4 大串地区の地形断面の景観模式図

と漁民の安全を祈る重要な場所として抽出された。しかし、現在は神社に参拝する島民の減少とともに十分な管理がなされておらず、金比羅神社に至っては神社自体の荒廃も進んでいる【図-4】。

これらのことから奈留島の文化的景観に欠かせない景観構成要素として「教会」「神社」と「集落との関係性」が挙げられよう。教会堂は無形の信仰と有形の宗教施設が一体となって表出する重要な景観構成要素であり、特に江上天主堂はカトリック信仰の象徴であると捉えられる。また金比羅神社はかつて奈留島の生業の中心であったキビナ漁の豊漁と安全を祈願していた場所であり、神社からの集落に対する俯瞰景は奈留島の原風景としても重要といえる。現在は祈祷のみとなっている日枝神社の祭事を含め、上記景観構成要素に対する保護が今後の景観施策として求められよう。

(2)重要文化的景観選定にむけた課題

本研究での調査協力に応じて頂いた島民は高齢の方が多く、「島民でも若い人は(島の生業や歴史を)よく知らない」との意見が多く見受けられた。また本事業では大学が参画し、五島市から島民らに調査協力を求めたが、このような機会以外に島民の知識を聞ける機会は存在していなかった。以上のことから、文化的景観価値について知識が豊富な島民の存在を広く共有すること、さらに奈留島の景観価値について世代間で議論できる場の創出が文化的景観保護の措置を講じる上での基礎的な課題として挙げられよう。

参考文献

- 1)五島市：五島市久賀島の文化的景観保存計画，五島市文化推進室，p7，2011年3月
- 2)篠原修編：景観用語事典（増補改訂版），彰国社，pp.158-161，2007